

学校長通信 No.34

文化祭と体育祭について

文化祭、体育祭というのは高校生活の中でも大変印象に残る学校行事です。しかも修学旅行のように3年間で1回だけ経験するという行事ではなく、1年・2年・3年それぞれの立ち位置に応じて経験していきますので、少しずつ成長していきながら段階的に記憶に残っていく学校行事となります。40年以上も前になりますが、自分の高校時代を振り返ってみますと（兵庫県立の田舎の高校です）まず、文化祭も体育祭も生徒会主催でしたので、先生方は基本的に企画から運営・後片付けまで全くノータッチでした。（先生はニコニコしながら見てくれていただけ、という認識しかありません。）自分達生徒が生徒会執行部を中心に実行委員会を立ち上げ、学校ルールの中での斬新な企画を立て、あるいはルールぎりぎりの企画は生徒会の先生と交渉をしてプログラムを作っていました。私自身も毎年、実行委員会の端くれに名を連ねていましたので、主に施設設備や資材関係の割り振りやら調達に奔走したような記憶があります。

企画はそれ自体が楽しいし比較的自由奔放にやっていたのですが、それを実際に実行に移すとなると、ヒト・モノ・カネ・場所等の面倒くさい準備やら段取りが必要になり、そうは言っても高校生のすることですので、不備だらけで要領も悪く、一度二度と経験のある上級生のアドバイスを得ながら、何とか企画運営していったように思います。失敗だらけの経験は痛烈だったり甘酸っぱかったりの思い出ばかりで、40年経った今でも憶えていて、たまに同級生で集まると必ずこの話題で盛り上がります。

日根野高校の文化祭、体育祭の現状を考えてみますと、生徒会主催の生徒自主という意味に於いては、やや寂しいところがあります。時代も違いますが、そればかりということでもなく、そのような企画運営を実現させてやれていないことは私たち教職員の大いに反省とするところでもあります。文化祭・体育祭は、本来は文化芸術的行為や体育を通じて、生徒らの自主性とチームワーク力を鍛え上げて行く場であり、さらに企画運営に何らかのカタチで全員が参加することで、ある種社会性に目覚めていくものだと考えますが、日根野高校がそこにたどり着くにはもう少し準備や訓練が必要かもしれません。ややもすると、息ぬきやお遊びで終わってしまう。いや、結果としてそういう楽しみ方になっても悪いばか

りではないと考えますが、その裏に企画運営する想像力や議論する力が渦巻いたかどうか、バックヤードとしての汗や涙があったかどうかというのは、人生経験上、大きなポイントだと思います。

文化祭、体育祭をテーマに少し思い出を紐解きながら考えてみました。やはり、よい思い出を作る取っておきの機会であることだけは間違いなく、私たち教職員はそのような生徒主体の学校行事を実現すべく、彼らと語り続けていく必要があるのだと痛感しています。そして、今年の文化祭と体育祭がすべての生徒達にとって思い出深いものとなることを願っています。